



## VINEYARD DATA

畑の見学 SHOP

- 主な栽培品種：ピノノワール、ピノグリ、シャルドネ、バカスカ、ソーヴィニヨンブラン、ツヴァイゲルトレーベ、アルモノワール、他
- 生産本数：806本(2018年度)、約1,800本(2019年度 ※予定)
- 栽培面積：1.35ha ●ファーストヴィンテージ：2018年
- ラインナップ：Bacchus/750ml、Blanc/750ml
- 購入方法：直営ショップ・e-mail

### 濱田ヴィンヤード

- ☑️ ぶドウ畑 / 北海道三笠市達布789-1  
・直売店舗 / 北海道三笠市高見町444-40
- ☑️ HPでお知らせする特定の売り出し時期の  
土日の正午～午後2時
- ☎️ 090-8370-9467
- ✉️ info@hamadavineyard.com
- 🌐 https://hamadavineyard.com



長男の玲央さんとともに

<Bacchus/750ml>



飲む人の笑顔のために、  
科学者が造るワイン



## 濱田ヴィンヤード

*Hamada Vineyard*

濱田 田洋文さんは、以前は医師としてがんの治療薬を研究していました。その治療薬が世界的な大手製薬会社により実用化され、医学の世界で一定の成果を挙げたことから、「第二の人生としてワイン造りを」と思い、2015年に醸造用ぶドウ農家として北海道三笠市達布で就農しました。2016年春には、バカスカやシャルドネなど、250本の苗木を植えました。2018年秋に初収穫を迎え、TAKI ZAWA WINEERYに醸造を委託し、2019年秋に初ヴィンテージをリリースしています。「約40年間、科学者として実績をあげてきたので、科学的なものの見方でワイン造りにも取り組み、失敗も含め自分の知見が後進の参考になればよい。」とワイン造りへの覚悟を語ります。「ちょっとしたハレの日に飲む上質なワイン」を目指して、濱田さんの挑戦は始まったばかりです。

歌志内市では、「ワイン用ぶどう試験栽培事業」に取り組んでいます。

## 歌志内上歌ヴィンヤード

*Utashinai Kamiuta Vineyard*

1991年、かつては炭鉱で栄えた北海道歌志内市の地で、最初のワイン用ぶドウ栽培がはじまりました。しかし、炭鉱閉山に伴い事業譲渡し、その後も栽培を続けてきましたが栽培技術員の独立、エゾシカによる被害等により、圃場は耕作放棄地になり、2016年、市が再起をかけて試験栽培事業に乗り出しました。荒れ果てた土地を開墾し、苗木を植え、この5年間で青々とした圃場の蘇りに直接携わったのは、果樹栽培技術員の遠藤真人さん。「13種類の樹を植えて、この寒い地に可能性がある品種を探っています。この畑を一番よく知っているのは自分なので、とにかくぶドウを観察しています。健全なぶドウができれば、自ずとワインはついてくると思うので。」と語ります。

## 北海道歌志内市、 ワインで地域復活への再挑戦



樹を観察する  
遠藤さん

### VINEYARD DATA

- 主な栽培品種：ピノノワール、ソーヴィニヨンブラン、オーセロワ、ピノグリ、他
- 栽培面積：4ha

### 歌志内上歌ヴィンヤード

- お問い合わせは歌志内市産業課まで
- ☑️ 北海道歌志内市字本町5  
・ぶドウ畑 / 北海道歌志内市上歌32-15
- ☎️ 0125-42-3215 ☎️ 0125-42-5171

区分	全道	上位5振興局				
		後志	空知	上川	檜山	十勝
面積 (ha)	401.7	127.0	119.1	46.4	41.2	34.1
加工専用品種	371.2	126.5	112.6	41.4	40.7	34.1
生食用加工兼用	30.5	0.5	6.5	5.0	0.5	—
収穫量 (t)	1,459.8	701.7	254.7	140.9	41.1	164.3
加工専用品種	1,323.6	701.5	237.6	132.2	40.9	164.3
生食用加工兼用	136.2	0.2	17.1	8.7	0.2	—

振興局別醸造用ぶどうの生産状況  
(平成27年)

北海道の醸造用ぶどう専用品種の栽培面積は全国最大であり、近年の栽培面積は400ヘクタール前後で推移している。空知は14振興局の中で、面積・収穫量とも第2位の規模を有している。

## 北海道の醸造用ぶどうの生産動向



COLUMN

(資料:北海道農政部 醸造用ぶどう導入の手引(改訂第2版)(平成30年3月)(http://www.pref.hokkaido.lg.jp/nsk/nsk/kajyu/index.htm)